わぴねす
WAPPINESS

2017 ANNUAL REPORT

チャクドラコロニーの村人と談笑する酒井美和さん

“これが、私が人生をかけてやりたいこと”

インドワークキャンプ団体namaste!
つくば支部所属 酒井美和さん

1995年愛知県生まれ。2015年筑波大学に入学、2017年東京外国語大学にベンガル文化、ベンガル語を勉強するために編入。

高校卒業した年の春、初めてワークキャンプに参加。そこでインド、ワークキャンプ（以下WC）の魅力に取り憑かれ、以降2018年8月のキャンプまでに計9回WCに参加。その間、つくば支部を立ち上げ、現在では40名を超える支部に。

「早くインドに行きたい！」
「次はインドの大学生をWCに誘いたいの！」
そう話すのは東京外国語大学4年の酒井美和さん。namaste!の中でもWC最多参加者である彼女にこれまでの活動について話してもらいました。

ワークキャンプ、インドとの出会い

高校生の時、先生に「インドのストリートチルドレン」に関することを勉強したいと相談した時に、その先生から同じ高校の卒業生である現代表の梶田を紹介されたのがきっかけです。インドに興味があった私は高校を卒業してすぐの春にWCに参加しました。一緒に参加していた大学生メンバーがとても個性あふれる人たちで、WCではこんなにも”自分らしさ”を出してもいいんだと感じたことを覚えています。

インドに行き続けている理由としては、インドという国もコロニーの人々（以下村人）もキャンパーも全部好きなんです。インドは食べ物も美味しいし、ヒンドゥー教の多様性があっていろんなことを受け入れてくれる文化、開放的なところが自分にとても合ってるなと感じています。またWCでは一緒に行ったキャンパーの成長・変化がとてもたくさん見れて、それがとても楽しいです。最初は全く他の人に興味がなかったキャンパーが、卒業時には「人ってほんと面白い」と言って、自らいろんな問題に関わるようになったり。村の人達は私がつらい時にもそのままの私を受け入れてくれて、可愛がってくれる、私にとってはまるで本当の家族のようです。

新しいコロニーへの挑戦

最初はインドが好きだから、ベンガル文化に興味があるからという理由でWCに参加していました。でも活動を続けていくうちに団体も大きくなってきて、これはもっといけるんじゃないかって感じたんです。キャンパー、村人双方に意識の変化を起こすことが出来ていることも実感出来ましたし、活動しているハンセン病コロニー（以下、コロニー）が綺麗になっていったり、村人が前向きになったりと、ハンセン病問題にもアプローチできていることが実感できてきたので。だからこそもっと活動を広げるべきだし、もっと状態が悪いコロニーに

もアプローチしていくべきだと思いました。もっと苦しんでいる人たちがインドの他のハンセン病コロニーにたくさんいるのに、なんで自分が好きなコロニーにだけ行き続けているんだろう、というのも気になっていました。だからこそ団体のメンバー、キャパシティなど、団体が成熟してきたと感じた2018年3月に新しいコロニーでWCを開始しました。

チャクドラコロニーで目の当たりにした差別

新しくWCをするコロニーを選ぶ前に3ヶ所のコロニーの調査を行いました。その中でチャクドラというコロニーの状態が一番悪かったのと、このまま放っておいたらダメだという印象を、調査に参加したキャンパー全員が感じ、全員一致でチャクドラコロニーでのWC実施を決定しました。他のコロニーは貧しいながらも自助組織を作ってなんとか前進しようという意思を感じましたが、このコロニーではそういったことを一切感じませんでした。ただただ衰退する一途のように感じられるコロニーだったのです。

キャンパーから折り紙をもらって喜ぶジスー君

その中でも、 私個人としてはジスーというコロニーに住んでいる男の子から聞いた話がとても心に残っています。彼は母親や祖父母が物乞いをしないで済むようにと、学校をドロップアウトし、小さな頃から近くの工場で働いています。また、日頃から家族だけでなく他の村人のお世話もしている、とても心の優しい男の子です。彼はハンセン病に罹ったことはありませんが、母親が回復者であるというだけで、他の村に遊びに行った時にそこの村人から「この村に来るな！」と言われたこと、そして今働いている工場でも、「ハンセン病コロニーに住んでいるからという理由だけで、差別を受けていること」を涙ながらに私達に話してくれました。”ハンセン病回復者とその家族に対するひどい差別”、これまでにも話には聞いたことがありましたし、頭ではそういった差別があるということはわかっていました。しかし、今まで参加したWCでは差別について直接私たちに話してくる村人はいなかったので、そういう話を初めて直接聞いて、ただただショックでした。それと同時に、そんなジスーに対して、彼に寄り添いたい、支えたいと強く感じました。

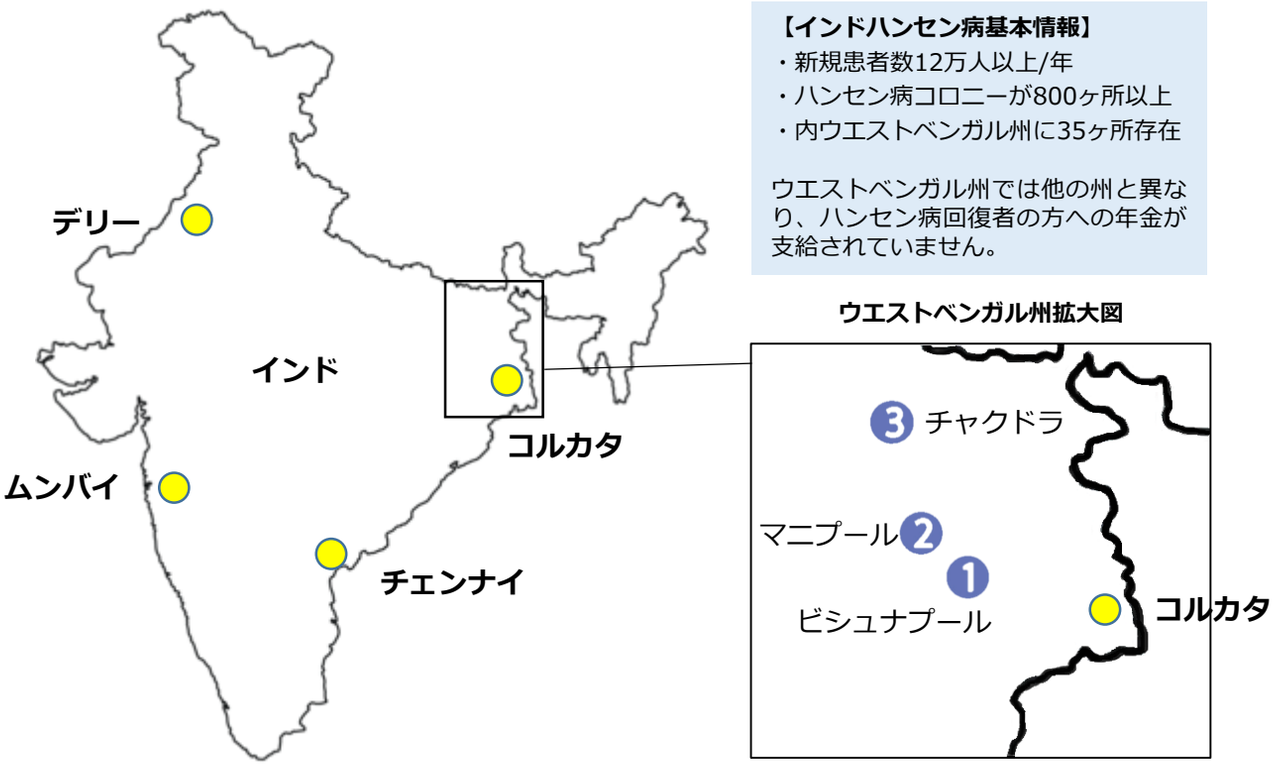
「何ができるかわからないけど、コロニーのためになにかしたい、出来る事があるならやりたいと思っている。だから泣かないで、一緒に頑張ろう」そう伝えると彼は堰を切ったように声をあげ泣いてしまいました。そんなジスーを見て、支え合える関係、一緒に前を向いて活動する仲間が、これまでのジスーにはいなかったのかな？だったら私が、キャンパーの私たちがそんな仲間になって一緒に頑張っていくんだ、という強い想いが膨らみ、このコロニーでWCを行う決意を新たにしたのです。

ライフワークとしてのワークキャンプ

この活動は、私が初めて「人生を通して」「人生をかけて」やってみたいと思ったことです。大学生活中、この活動しかしてきませんでしたが、この活動一つに絞ってやってきたからこそ、つくば支部も立ち上げることができましたし、新しいコロニーでのWCも始動することができました。私自身は来年の春に大学を卒業しますが、これからもライフワークとして、この活動を続けていきたいと思います。あと実は、卒業するまでにインドの大学生をWCに巻き込みたいと思っています。2017年の夏にインドの大学でハンセン病に関する調査を行ったのですが、インドの大学生がハンセン病について全然知らないことが分かりました。もともとインドの問題に対して、日本人だけが中心になって取り組んでいることにも違和感があったというのもあるのですが、調査の結果を見て、これはもうインド人大学生もWCに巻き込んでいくしかないなと。 WC参加者を募集するために、2018年の秋にインドに2ヶ月程滞在してインドの大学を回る予定です。目指せコルカタ支部設立！一緒に大学回りたい人募集中！

調査のため各家庭を訪問するキャンパー

わぴねすが活動している3つのコロニー



地図画像引用：*reative Commons Attribution-Share Alike 4.0 License.*

【インドハンセン病基本情報】
・新規患者数12万人以上/年
・ハンセン病コロニーが800ヶ所以上
・内ウエストベンガル州に35ヶ所存在

ウエストベンガル州では他の州と異なり、ハンセン病回復者の方への年金が支給されていません。

①ビシュナプールコロニー

場所	ウエストベンガル州バンクラ県ビシュナプール地域
アクセス	コルカタから列車で約3時間
人口	約150人
わぴねす活動歴	2011年～　（2012年～2016年は治安悪化のため活動休止）
差別状況 **悪　○○●○○　無**	当団体の活動や世の中の変化によって、近年差別は減りつつある。 しかし、就労時や学校において差別をされることがまだある。
就労状況 **悪　●○○○○　良**	未だに半数以上の人が物乞いで生計を立てている。
居住環境 **悪　○●○○○　良**	家屋の修繕や、井戸の補修などを続けてきた結果、生活環境は改善されつつある。雨漏りがする家はのこり4軒となっている。しかし、井戸がシャワー代わり、トイレは近くの林、と他にも課題は多く残っている。
医療・教育状況 **悪　○○●○○　良**	近くに病院があり、必要な治療は無料で受けられる。公立校であれば高校卒業までは無料で教育を受けられる。しかし、学校の勉強についていくのが難しいことや、貧しい家庭の場合は働きに出るために中退してしまう子供が多い。

WCで整備した水道を清掃する女性たち

コロニー内の路地

コロニーの人々と談笑するWCメンバー

②マニプールコロニー

場所	ウエストベンガル州プルリア県アドラ地域
アクセス	コルカタから列車で約4時間
人口	約1000人
わぴねす活動歴	2013年～
差別状況 **悪 ○○○●○ 無**	近年、目に見える差別は減りつつある。差別を受けることなく、大学へ進学出来た者や、一般企業・公務員として働くことが出来ている若者もいる。
就労状況 **悪 ○○●○○ 良**	これまでの差別や貧困から、30代以上はまともな教育を受けていない人が多く、そのため未だに物乞いやごみ拾いをして生活している人が多い。
居住環境 **悪 ○●○○○ 良**	バラックのような家、土でできた家、セメントのしっかりした家など、世帯数が多いため家庭によって状況がかなり異なる。
医療・教育状況 **悪 ○○○●○ 良**	独居老人施設がある、キリスト系団体の支援を受けて、定期的に回復者の後遺症のケアがされている。近隣の病院で治療を受けることができる。コロニー内に児童養護施設や小学校があり、教育に対する意識も比較的高い。

独居老人施設に住んでいるおじいさんらと共に

コロニーにある学校でのお昼の様子

コロニーの平均的な家屋

③チャクドラコロニー

場所	ウエストベンガル州ボルドワン県チャクドラ地域
アクセス	コルカタから列車で約4時間
人口	約50人
わぴねす活動歴	2018年～
差別状況 **悪 ●○○○○ 無**	近隣住民や職場の同僚などから、日常的に差別されている状態
就労状況 **悪 ●○○○○ 良**	男性は季節労働を行っており、女性や高齢者の人は物乞いで生計を立てている。また物乞いで得られる金額も非常に少ない（あるおばあさんの例：5ルピー（約8円）／日）
居住環境 **悪 ●○○○○ 良**	雨漏りの他、電気が一日につき2時間ほどしか利用できないなど問題は多い。台風で家が倒壊し、ホームレス状態の家庭が3世帯いる。
医療・教育状況 **悪 ●○○○○ 良**	近隣の病院で治療を受けることができる。学校へ通ったことがない大人がほとんどのため、コロニー内で5人ほどしか文字が読める人がいない。

コロニーの人々

リサーチをするWCメンバー

コロニーの中でも比較的まともな家屋

ワークキャンプ事業部

今年度は、名古屋及びつくば支部に所属する学生数が合計50名を超えました。また、毎月療養所を訪問し回復者の方々と交流を深めるメンバーがいるなど、国内での活動も活発化しています。これまでWC参加者は日本人だけでしたが、2018年度はインド人学生がＷＣに参加出来る様な体制を目指していきます。

ビシュナプールコロニー

屋根の張替えを行った家屋

数値で見る2017年度

14軒

14軒の家屋修繕により約50人の村人の生活環境が改善されました。

3人

今年も引き続き、3人の大学の学費の支援を行いました。

マニプールコロニー

道路の修繕を行っている様子

1 箇所

以前設置したゴミ集積場に溜まっていたゴミの除去を行いました。

50m

雨季になると冠水してしまう道路の修繕を行いました。

チャクドラコロニー

コロニーの人々とミーティングを行うキャンパー

11世帯

コロニーに住んでいる全11世帯を対象とした調査を行いました。

3 人

現地有力者との話し会いを行い、今後の活動への協力を約束してもらうことが出来ました。

Work Camp

共に暮らし
共に働く

2017年度を終えて

以前から行っていた屋根の張替えをすべての家屋（建て替えが必要なもの以外）に行うことができました。これによって、村人が雨季でも安心して生活することができるようになりました。また、進学応援プロジェクトも佳境を迎えています。3人の大学卒業が残り1年に迫った今、進路を決めるための情報収集や、一人一人との話し合いを重ねています。

私達が行ってきたコロニーの清掃を見て、村人達も定期的にコロニーの清掃をするようになったといううれしい変化もありました。

2018年度のチャレンジ

4軒の家屋建て替え

長年続けてきた家屋修繕ですが残り4軒の建て替えをもって完了します。

大学卒業後の進路決定

3人の大学生達は2019年に卒業を控えているため卒業後の進路調査を行い、今後の支援のあり方を決定します。

インフラ整備の他、他のコロニーに比べて規模が大きく課題が見えづらくなりがちな当コロニーで、改めて各戸を訪問する聞き取り調査を行い、今後の活動の方針を定め直しました。結果、より多くの村人が、行動を起こすようになるための新たな働きかけとして、村人を積極的に活動に呼び込む参加型ワークキャンプが実施されました。

今後は就労支援事業部と連携を取りながら、コロニーの自助組織の活性化に努め、より良いコロニーにするべく、環境整備を進めていきます。

家屋の修繕

家屋の修繕や衛生環境の整備などのインフラ整備活動を行います。

ゴミ捨ての意識改善

ゴミをポイ捨てするのではなく、ごみ集積場に捨てる習慣を身に着けてもらうべく、引き続き啓発プロジェクトを行い、村人へ働きかけていきます。

2018年3月に3か所のコロニーを調査した結果、差別問題や家屋の状況、識字率など圧倒的に劣悪な状態にあるチャクドラコロニーで今後活動を展開することを決定しました。規模は人口約50名と小さなコロニーですが、近隣からの差別がひどい他、家屋が崩壊したことで住む場所を失い、駅や草むらで寝泊まりせざるを得ない状況にある家族がいたり、安全な水を手に入れられる設備がなかったりと、緊急の課題が山積みのコロニーです。

2018年8月のWCより、様々なプロジェクトを展開していきます。

家屋の修繕・新築

家が倒壊し、住む場所が無い3世帯の家族の家屋新築及び修繕を行います。

近隣住民への聞き取り調査

差別の正確な状況を把握するために、近隣住民に対する詳細な聞き取り調査を行います。

就労支援事業部

Employment Support

村人の
経済的な自立

就労支援事業部では、就労機会の提供を行うことで、インドハンセン病コロニーの人々が物乞いに頼らずに生活できる未来を目指しています。2016年度から行っているきのこ栽培トレーニング事業は2期目に入りました。

2017年度きのこ栽培トレーニング事業

ビシュナプールコロニーにてきのこ栽培トレーニング事業2年目が終わりました。 昨年はソソックという虫によって感染した病気のせいで収穫量は予定の数量に全く届きませんでしたが、今年は事前に栽培小屋の消毒を行い対策をしたため病気にかかることなく無事育ちました。

また今年度は冬だけでなく夏季シーズンのきのこ栽培にも着手しました。このきのこの栽培に成功すれば一年を通して安定した収入が得られるようになるため村人は気合が入っています。

きのこの成長を観察する村長のJogen Das氏

現在使用中のきのこ栽培小屋

2018年度きのこ栽培トレーニング

これまで2年間かけてきのこの栽培ノウハウを学び、安定して栽培をすることが可能になりました。しかし、きのこは問題なく育つようになったものの、現在トレーニング参加者が12名いるということもあり、人数に対して栽培小屋が小さく、総収穫量は十分とは言えません。そこで2018年度からはコロニー内に新しくきのこ栽培小屋を設立するなど、きのこ栽培の拡大を目指して活動していく予定です。

□2018年度新規事業にチャレンジします！□

菌種の培養作業をする梶田

きのこ菌種培養によるコスト削減、菌種の販売

アーシャ＝アジアの農民と歩む会の皆様の協力の下、きのこ菌種の培養技術の習得ができました。2018年度からは菌種を自分達で培養することができるようになったことで、当事業にかかるコストを下げることが出来、結果として村人への利益も増加させることができます。また菌種の販売にもチャレンジします。

TOTOレンタル事業

TOTOと呼ばれる電動3輪自動車を購入し、村人にレンタルする事業を開始します。2018年度の対象コロニーはビシュナプールハンセン病コロニーですが、徐々に対象者、対象コロニーを増やしていく予定です。 TOTOはリキシャと比べて3倍程度収入が違うことから有力な就労支援になるのではと期待が高まっています。

実際に町で走っているTOTO

教育事業部

Educational Support

国内外の若者の啓発教育

教育事業部では新たな取り組みとしてインドと日本にてフィールドワークを行いました。また学生主導で国内療養所に訪問する機会を多く持つことが出来、インドだけでなく国内活動の幅も広がってきました。

絵本読み聞かせプロジェクト

インドのハンセン病コロニーの子供たちへ、日本の絵本を届け、現地で読み聴かせを行うミニワークキャンプを開催致しました。読み聴かせをした絵本は、認定NPO法人ESAアジア教育支援の会様（以下、ESA）よりベンガル語に翻訳されている絵本を寄贈して頂きました。

コロニーの子供たちに絵本の読み聴かせをすることで、日本文化に興味を持ってもらい、彼らの学習意欲を高めることを目的として実施致しました。多くの子供たちが目をキラキラ輝かせながら、夢中になって絵本を読んでくれました。読み聴かせ後には、彼らの想像力を向上させるために読書感想画を描いてもらい、素敵な絵がたくさん出来あがりました。

読み聞かせしている絵本に興味津々の子供達

絵本の感想画を描く子供たち

子供たちに読み聞かせする参加者

絵本を手にして喜ぶシルパちゃん

入所者の方の畑を耕す学生参加者

国立駿河療養所でのミニワークキャンプ

国立駿河療養所で初めてのミニワークキャンプを開催致しました。参加者総勢12名で入所者の方の畑のお手伝いをするワークをしてきました。近くにある竹林から竹の根が無数に伸びており、それらを取り除くというワークを行いました。

入所者の方と畑で笑ったり、冗談を言い合ったり、みんなで楽しくワークを行うことができ、入所者の方との絆を深めることができました。ワーク後には、別の入所者の方もお呼びして交流会を開きました。入所者の方からたくさんのお話を聞かせていただくことができました。

NHKで放送されました！

NHKBS1にて代表梶田を中心にわぴねすの活動が放送されました。特にビシュナプールハンセン病コロニーに住んでいるマハトさん夫婦へのインタビューに対する反響がとても大きく、国内外様々な方から応援メッセージをいただくことができました。今後、活動はもちろんですが、様々な方に活動を知っていただくべく、発信にも力を入れていきたいと思います。

NHKの取材を受ける村人

2017 TOPICS

日本財団笹川会長との会談

日本財団会長の笹川陽平氏とインドデリーにて会談をしてきました。特にわぴねすの活動の中心であるウエストベンガル州のハンセン病回復者に対する年金、その他必要な制度などについての意見交換をすることが出来、とても有意義なものになりました。

笹川会長(右)と当団体代表梶田(左)

クラシック演奏会の開催

ドゥルガプール、ビシュナプール、ピアルドバハンセン病コロニーにて開催した、認定NPO法人 Music Sharing主催の演奏会のコーディネーターを務めました。ヴァイオリニストの五嶋みどりさんを中心に、アメリカやヨーロッパから4名の奏者の方がコロニーを訪問し、クラシック音楽の演奏を披露していただきました。村人は初めて聞く音楽でしたが「とても綺麗な音だった」ととても感動していました。

コロニーで演奏をしている様子

“世界ハンセン病デー” デモ参加

世界ハンセン病デーにあわせて、ハンセン病コロニーの人々による大規模なデモ活動が行われました。昨年に引き続き、活動を行っているコロニーの村人たちと共に理事の檜山が参加してきました。ウエストベンガル州内38ヶ所のハンセン病コロニーから集まった人々(約4000人)によるデモ行進と州政府に対する嘆願書の提出が行われました。

デモ活動をする人々

レプロシーカンファレンスへ出席

インドデリーにて開催されたレプロシーカンファレンスに出席し、インド各地方で活動している医療関係者やNGOの取り組みなどを学んできました。カンファレンスに出席されていた様々な方との縁で、きのこ菌を培養する方法を学ぶことができるなど、就労支援事業の発展にもつながりました。

カンファレンスの様子

活動を始めて9年目、法人化をして丸2年が経ちました。

挑戦と失敗を繰り返し、ほんのときたまの喜びと、多くの挫折を味わってきました。

それでも、小さな1歩を積み重ねてきた結果、
海外の方から、活動に参加したいとのメールを頂いたり、
日本の企業の方からお声がけ頂いたりと、
少しずつ、色々な分野の、様々な人々との関わりが広がってきました。

「ウエストベンガル州に”わぴねす”あり」とだんだん言って貰えるようになりました。

活動が、コロニーの人々の行動を変化させました。
近隣住民のコロニーの人々に対する対応も変化してきました。

これまでは正直、「この活動には意味がある」と思い込んで、突き進んできたところもありました。

しかし、今、やっと、ちょっとだけれど、自信をもって、私たちの活動が、
コロニーの人々、ひいては社会にとって意味があると、実感できるようになってきました。

今までは、インドのハンセン病問題の解決方法を模索していたフェーズ。
これからは、活動を深め、展開していくフェーズに。

世界中の誰しもがいきいきわくわく生きることのできる社会を目指して。
わぴねすらしく、これからも一歩一歩、歩んでいきます。

2018年7月1日
代表理事　梶田　恵理子

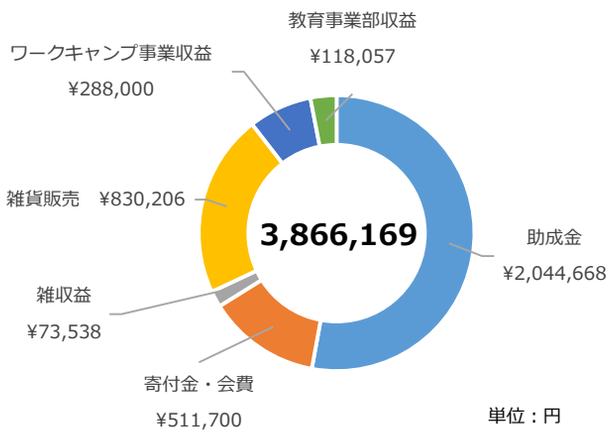
NPO法人わぴねす団体概要

正式名称	特定非営利活動法人わぴねす
代表理事	梶田恵理子
協力団体	笹川記念保健協力財団 Pyari Foundation-India Trust NGO FPSA
事業形態	・ワークキャンプ事業部 ・就労支援事業部 ・教育事業部
活動内容	マイノリティの社会的地位の向上及び尊厳の回復を目的として、インドハンセン病コロニーにてハンセン病問題解決のために活動を行なう
WEBサイト	・NPO法人わぴねす https://wappiness.org ・インドワークキャンプ団体namaste! https://namaste.wappiness.org

2017年度収入

2017年度はアジア生協協力基金、笹川記念保健協力財団からの助成金収入が主な収益源となりました。事業収益のメインであるインド雑貨輸入販売事業は830千円の収益になりましたが、事業中止による在庫処分の売上が半分を占めています。また寄付金及び会費として511千円、述べ100人を超える方からの支援をいただきました。
2018年度はマイクロファイナンス事業の始動により、インド国内においても収益が上がる仕組みを築いていきたいと考えています。

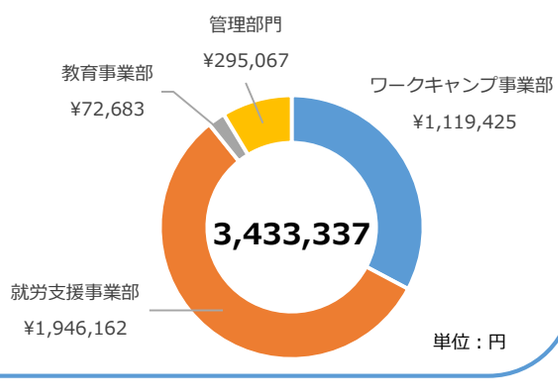
2017年度収入内訳



2017年度支出

就労トレーニングが拡大しているため、就労支援事業部の支出が半分以上を占め、対前年度の2倍近い支出となりました。また教育事業部によって現地訪問型のスタディツアーを開催したため、若干ですが支出が発生しております。
2018年度は既に決定している助成事業があること、ワークキャンプ開催地が1箇所増えたことから、ワークキャンプ事業部における支出は2017年度の2倍程度を予定しています。

2017年度支出内訳



支援方法

クレジットカード

右記QRコードを読み取り、
HP上にて手続きをお願いいたします。

銀行振込

銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	特定非営利活動法人わぴねす
支店名	二〇八（ニゼロハチ）
預金種目	普通
口座番号	0538244